

2011 年度(第 89 期)部門長 緒方正則(関西大学)

2011 年度の部門長を務めました緒方より一言御挨拶申し上げます。

思い起こせば、部門長に就任直前の 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、多くの貴重な人命が失われたことは、誰もがご存じのとおりです。学会では、すぐさま大震災に関する複数の調査ワーキンググループ (WG) を立ち上げられました。4 月下旬に WG への人員の推薦依頼を受け、すぐに部門インフォメーションメールで呼びかけましたところ、黄金週間連休中にもかかわらず数名の会員から応えていただきました。心細い新米部門長の初仕事として重圧を感じていましたが、『うちの部門、なかなかやるぞ』とたいへん心強く感じました。技術と社会部門の名のとおり、将に社会との架け橋となる熱い心を示していただいた「T&S 七人の侍」=小野寺英輝 (岩手大学)、加藤義隆 (大分大学)、佐藤建吉 (千葉大学)、高田一 (横浜国立大学)、中嶋秀朗 (千葉工業大学)、星 明 (一関工業高等専門学校) および小職、をたいへん誇りに思います。

次の重要課題は、部門活動自己評価書の作成でした。2006 年に始まった部門活動の点検評価は、当年で第 2 回目の実施となり、8 月末に自己評価書の提出が求められました。

部門活動の評価結果は幸いにして 2009 年の中間審査結果を下回ることなく、『部門の特徴を生かし、今後より一層の活動を期待する』との好意的な評価をいただきました。これはひとえに運営委員、各委員会、各研究会ならびに年次大会・部門講演会・国際会議など多くの行事を担当された委員諸氏の御尽力と積極的な活動成果の賜と確信いたします。とくに、2006 年以降に部門長を務められた、村田良美 (明治大学)、大久保英敏 (玉川大学)、吉田敬介 (九州大学)、小野寺英輝 (岩手大学)、黒田孝春 (木更津工業高等専門学校、現 長野高専) の各氏から、経験を踏まえた有益な御助言をいただき、ややすれば筆も心も折れそうになる心境を精神面で大いに支えていただきました。ここに紙上をお借りして篤く御礼申し上げます。

これで一息と思っていると、つぎの課題は年末の次期副部門長 (次次期部門長就任) 選挙に向けた候補者選びでした。本部門を第 1 位登録している会員数は 400 名を下回るほどで、7~8 千を誇る他部門のように人数 (人材ではない) が豊富とは決していえません。前述の元部門長各位の御助言を受け、これから先、数年の見通しはつききました。したがって、各位におかれましては、候補御都合伺いがあるときには、多少の都合と私情は脇に置かれ、御快諾をいただきますようお願い申し上げます。

る次第です。部門長一人にすべてを任せるのではなく、部門全員で『部門が存続し発展するよう支える』という気概で行動していくことが、この一年の貴重な経験から重要であると実感しました。とくに4年の長きにわたり幹事を務められ、計画・立案・実行に尽力をいただきました加藤義隆氏（大分大学）には謝意を言い尽くせません。小職在任の1年間、大所高所よりいただきました御教示に篤く御礼申し上げます。

小職の不手際で継続審議となった事項も少なからずあり、2012年度（第90期）の部門運営に表彰委員長としてお手伝いをさせていただくこととなりました。今後とも各位の御教示をお願い申し上げます。

さて最後になりましたが、過分の御助言と御支援をいただきました、事務局で部門を担当された井上 理氏、現 御担当の曾根原雅代氏に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

---



---

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.27

(C)著作権:2012 社団法人 日本機械学会 技術と社会部門